

# 野村グローバルAI関連株式ファンド Aコース (為替ヘッジあり) / Bコース (為替ヘッジなし)

野村グローバルAI関連株式ファンド Aコース/Bコース

## 運用報告書(全体版)

第12期 (決算日2023年5月15日)

作成対象期間 (2022年11月15日～2023年5月15日)

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。  
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。  
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

#### ●当ファンドの仕組みは次の通りです。

	Aコース	Bコース
商品分類	追加型投信/内外/株式	
信託期間	2017年2月23日から2027年11月15日までです。	
運用方針	野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)受益証券への投資を通じて、主として新興国を含む世界各国のAI(人工知能)技術関連の株式(DR(預託証券)を含みます。)に実質的に投資し、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジ(先進国通貨等による代替ヘッジを含みます。)により為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。	実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。
主な投資対象	野村グローバルAI関連株式ファンド Aコース/Bコース マザーファンド	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資する場合があります。 新興国を含む世界各国のAI(人工知能)技術関連の株式(DR(預託証券)を含みます。)を主要投資対象とします。
主な投資制限	野村グローバルAI関連株式ファンド Aコース/Bコース マザーファンド	株式への実質投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等から、基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

## 野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104

〈受付時間〉営業日の午前9時～午後5時



ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

## <Aコース>

### ○最近5期の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価額			株組 入比率	株式 先物比率	純資 産額
		税分	込配 金	期騰 落率			
	円		円		%	%	百万円
8期(2021年5月14日)	15,385		300		3.1	98.7	90,842
9期(2021年11月15日)	18,728		500		25.0	97.3	104,111
10期(2022年5月16日)	12,051		100		△35.1	94.9	64,944
11期(2022年11月14日)	11,521		50		△4.0	94.4	59,063
12期(2023年5月15日)	11,660		100		2.1	98.0	52,875

\*基準価額の騰落率は分配金込み。

\*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

\*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

\*当ファンドは特定の指数等を念頭に置いた運用を行なっており、また、当ファンドの主要投資対象であるAI技術関連企業の株価の値動きを表す適切な指数等がないため、ベンチマーク等はありません。

### ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準	価額		株組 入比率	株式 先物比率
		騰落	率		
(期首)	円		%	%	%
2022年11月14日	11,521		—	94.4	—
11月末	11,123		△3.5	95.2	—
12月末	10,835		△6.0	94.8	—
2023年1月末	11,561		0.3	96.4	—
2月末	11,485		△0.3	97.8	—
3月末	12,006		4.2	96.4	—
4月末	11,565		0.4	96.7	—
(期末)					
2023年5月15日	11,760		2.1	98.0	—

\*期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

\*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

\*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

## <Bコース>

### ○最近5期の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価額			株組 入比率	株式 先物比率	純資 産額
		税分	込配 金	期騰 落			
	円		円		%	%	百万円
8期(2021年5月14日)	16,333		350		8.3	98.7	92,825
9期(2021年11月15日)	20,596		600		29.8	97.3	110,176
10期(2022年5月16日)	14,693		250		△27.4	94.8	76,671
11期(2022年11月14日)	15,127		300		5.0	96.9	74,742
12期(2023年5月15日)	15,227		300		2.6	97.9	71,736

\* 基準価額の騰落率は分配金込み。

\* 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

\* 株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

\* 当ファンドは特定の指数等を念頭に置いた運用を行なっており、また、当ファンドの主要投資対象であるAI技術関連企業の株価の値動きを表す適切な指数等がないため、ベンチマーク等はありません。

### ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準	価額		株組 入比率	株式 先物比率
		騰	落率		
(期首)	円		%	%	%
2022年11月14日	15,127		—	96.9	—
11月末	14,555		△3.8	95.2	—
12月末	13,678		△9.6	95.0	—
2023年1月末	14,469		△4.3	96.4	—
2月末	15,017		△0.7	97.8	—
3月末	15,492		2.4	96.3	—
4月末	15,053		△0.5	96.7	—
(期末)					
2023年5月15日	15,527		2.6	97.9	—

\* 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

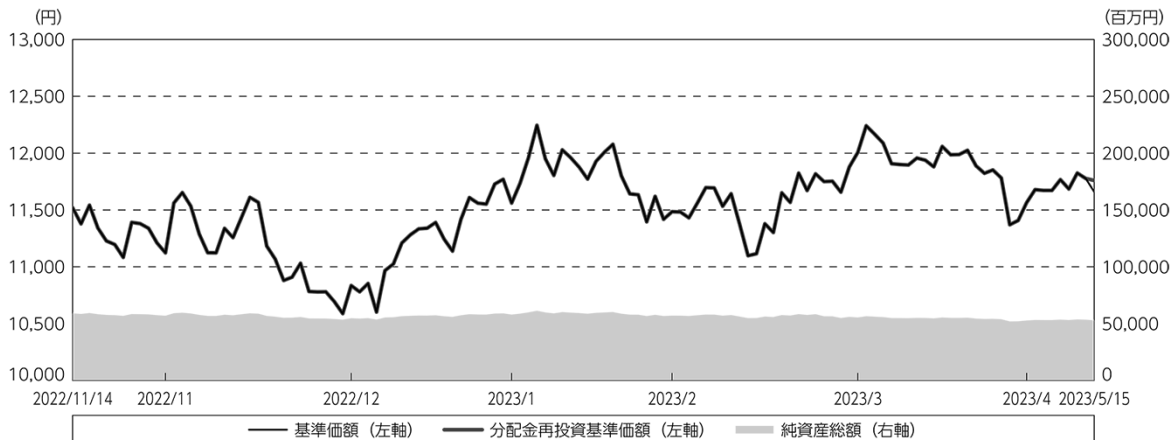
\* 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

\* 株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

## <Aコース>

### ◎運用経過

#### ○期中の基準価額等の推移



期首：11,521円

期末：11,660円 (既払分配金(税込み)：100円)

騰落率： 2.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2022年11月14日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

#### ○基準価額の主な変動要因

- (下落) 2022年11月の米雇用統計やISM非製造業景況指数が景気の堅調さを示す内容となり、利上げ長期化への警戒が再燃したこと、FOMC(米連邦公開市場委員会)で継続利上げの必要性を強調する議長発言をきっかけに、景気後退と企業収益悪化への警戒感が高まったこと
- (上昇) 12月の米雇用統計において賃金上昇率が前月から減速したことなどからFRB(米連邦準備制度理事会)の金融引き締め長期化への警戒が和らいだこと、12月の米CPI(消費者物価指数)上昇率が前月比で低下したことにより、FRBの利上げペースの減速が期待されたこと
- (下落) FRB議長が米上院銀行委員会での議会証言で利上げペースの再加速や利上げ長期化の可能性を示唆したこと、米地銀の経営破綻を発端とした信用不安が広がったこと
- (上昇) 米地銀を巡る過度な懸念が和らぎ、投資家心理が改善したこと、市場予想を上回った米大手IT企業の2023年1-3月期決算内容が好感されたこと

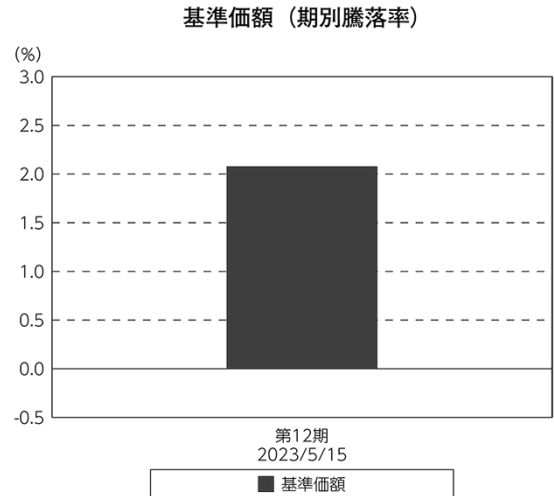
## <Aコース>

### ◎当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは特定の指数等を念頭に置いた運用を行なっており、また、当ファンドの主要投資対象であるAI技術関連企業の株価の値動きを表す適切な指数等がないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。

保有銘柄のうち、AIの普及から大量のデータ処理を行なうことのできる高性能GPU（画像処理半導体）の需要が高まるとの期待によりエヌビディア（米国の半導体・半導体製造装置株）などが上昇したことが基準価額のプラス要因となりました。一方、スマートフォン向け半導体の在庫調整が中国市場での需要低迷などによって市場予想よりも長期化すると懸念が高まったクアルコム（米国の半導体・半導体製造装置株）などが下落したことが基準価額のマイナス要因となりました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

### ◎分配金

- (1) 分配金につきましては、基準価額水準等を勘案して、1万口当たり100円とさせていただきます。
- (2) 留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行いません。

### ◎分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第12期
	2022年11月15日～ 2023年5月15日
当期分配金	100
(対基準価額比率)	0.850%
当期の収益	30
当期の収益以外	69
翌期繰越分配対象額	7,961

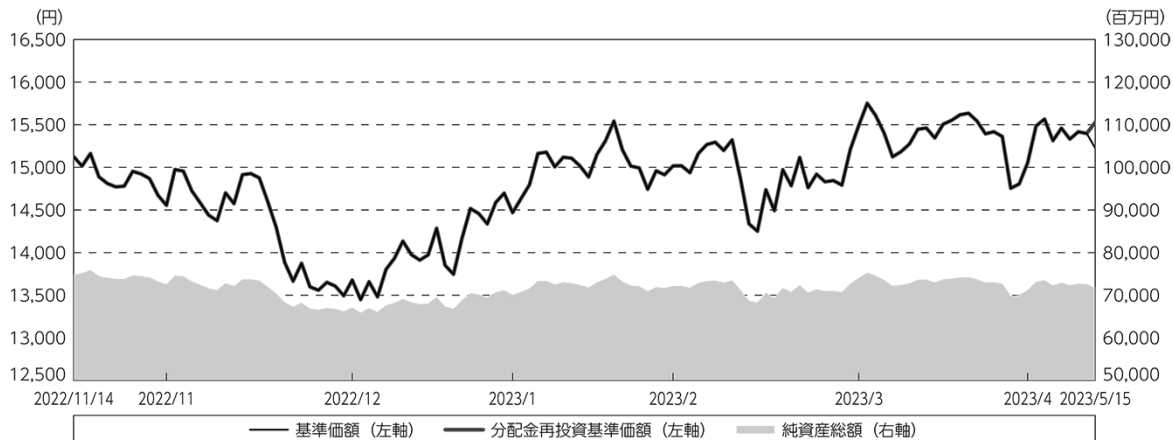
(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下四捨五入して算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## <Bコース>

### ◎運用経過

#### ○期中の基準価額等の推移



期首：15,127円

期末：15,227円 (既払分配金(税込み)：300円)

騰落率： 2.6% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2022年11月14日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

#### ○基準価額の主な変動要因

- (下落) 2022年11月の米雇用統計やISM非製造業景況指数が景気の堅調さを示す内容となり、利上げ長期化への警戒が再燃したこと、FOMC(米連邦公開市場委員会)で継続利上げの必要性を強調する議長発言をきっかけに、景気後退と企業収益悪化への警戒感が高まったこと、為替市場で円が上昇(円高)したこと
- (上昇) 12月の米雇用統計において賃金上昇率が前月から減速したことなどからFRB(米連邦準備制度理事会)の金融引き締め長期化への警戒が和らいだこと、12月の米CPI(消費者物価指数)上昇率が前月比で低下したことにより、FRBの利上げペースの減速が期待されたこと、為替市場で円が下落(円安)したこと
- (下落) FRB議長が米上院銀行委員会での議会証言で利上げペースの再加速や利上げ長期化の可能性を示唆したこと、米地銀の経営破綻を発端とした信用不安が広がったこと、為替市場で円が上昇したこと
- (上昇) 米地銀を巡る過度な懸念が和らぎ、投資家心理が改善したこと、市場予想を上回った米大手IT企業の2023年1-3月期決算内容が好感されたこと、為替市場で円が下落したこと

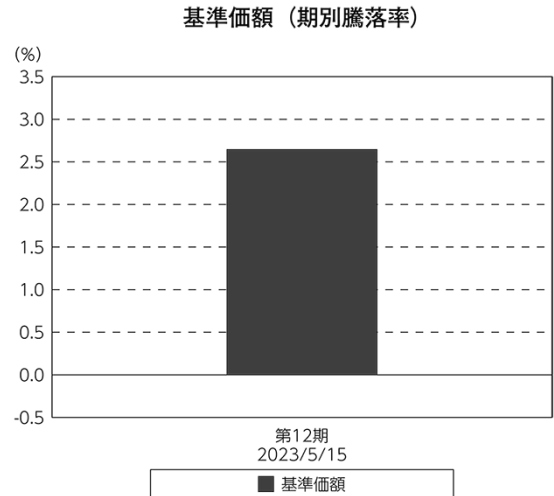
## <Bコース>

### ◎当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは特定の指数等を念頭に置いた運用を行なっており、また、当ファンドの主要投資対象であるAI技術関連企業の株価の値動きを表す適切な指数等がないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。

保有銘柄のうち、AIの普及から大量のデータ処理を行なうことのできる高性能GPU（画像処理半導体）の需要が高まるとの期待によりエヌビディア（米国の半導体・半導体製造装置株）などが上昇したことが基準価額のプラス要因となりました。一方、スマートフォン向け半導体の在庫調整が中国市場での需要低迷などによって市場予想よりも長期化すると懸念が高まったクアルコム（米国の半導体・半導体製造装置株）などが下落したことが基準価額のマイナス要因となりました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

### ◎分配金

- (1) 分配金につきましては、基準価額水準等を勘案して、1万口当たり300円とさせていただきます。
- (2) 留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

### ◎分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第12期
	2022年11月15日～ 2023年5月15日
当期分配金	300
(対基準価額比率)	1.932%
当期の収益	42
当期の収益以外	257
翌期繰越分配対象額	9,328

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下四捨五入して算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## <Aコース/Bコース>

### ○投資環境

世界の株式市場は、当期初、2022年10月の米PPI（生産者物価指数）上昇率が市場予想を上回ったことや、11月開催分のFOMCの議事要旨から利上げペースの減速期待が再燃し市場心理が上向く一方で、11月の米雇用統計やISM非製造業景況指数が景気の堅調さを示す内容となり、金融引き締め姿勢の長期化が懸念され、株式市場は上値の重い展開となりました。12月中旬以降は、FOMCで市場予想通りに利上げ幅縮小が実現したものの、継続利上げの必要性を強調するパウエルFRB議長の発言をきっかけに、景気後退と企業収益悪化への警戒が高まり下落しました。2023年1月に入ると、12月の米雇用統計において賃金上昇率が前月から減速したことや12月の米CPI上昇率の低下に伴いFRBによる利上げペースの減速期待が高まり上昇しましたが、1月の米CPI上昇率が市場予想を上回りインフレ圧力が根強いことが示されたことやFRB議長が米上院銀行委員会での議会証言で利上げペースの再加速や利上げ長期化の可能性を示唆したことでFRBによる利上げ長期化の懸念が再燃し下落しました。3月には米地銀の経営破綻を発端とした信用不安が広がり下落する局面もありましたが、世界各国の規制当局による積極的な流動性供給により米地銀を巡る過度な懸念が和らぎ、投資家心理が改善したことや、市場予想を上回った米大手IT企業の1-3月期決算内容などが好感されたことから期末にかけては上昇しました。当期において世界の株式市場は上昇しました。

為替市場では、FRBの利上げ打ち止め観測が台頭し米長期国債利回りが低下したことから日米金利差が縮小し、当期において米ドル安・円高となりました。



## ＜Aコース／Bコース＞

### ○当ファンドのポートフォリオ

#### [野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド]

##### ・株式組入比率

期を通じておおむね高位を維持しました。

##### ・期中の主な動き

- (1) 当ファンドでは、世界各国の株式の中から、「IT関連」、「産業関連」、「医療・ヘルスケア関連」等の分野を中心に高度なAI（人工知能）先端技術の研究成果に着目し、AIの活用、実用化によって恩恵を受け、高い成長が期待される企業等に投資を行ないました。結果、AIの活用により中長期で成長が期待される情報技術セクターなどの投資比率を高めとしました。
- (2) 銘柄につきましては、株式や債券などの指数提供に加えて、ESGや気候変動など新たな分野に関連した情報提供によって中長期的な成長が期待できると判断したMSCI（米国の資本市場株）や、高度な無線通信技術を搭載した低消費電力タイプの高性能半導体を提供し、主力のスマートフォンだけではなく自動車や産業機器向けにも販路を拡大していることから業績の成長が期待できると判断したクアルコム（米国の半導体・半導体製造装置株）などを買い付けしました。一方、中長期的な成長期待はあるものの個人向け信用情報管理事業の不振が継続すると判断したインテュイット（米国のソフトウェア株）や、不透明な経済環境からデジタル広告需要が低迷し、主力のデジタル画像編集ソフトの販売が減速すると判断したアドビ（米国のソフトウェア株）などを売却しました。

#### [野村グローバルAI関連株式ファンド Aコース]

- ・主要投資対象である[野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド] 受益証券を期を通じておおむね高位に組み入れました。

##### ・為替ヘッジ（為替の売り予約）

当ファンドの運用の基本方針に従い、実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジ（先進国通貨等による代替ヘッジを含みます。）により為替変動リスクの低減を図りました。

#### [野村グローバルAI関連株式ファンド Bコース]

- ・主要投資対象である[野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド] 受益証券を期を通じておおむね高位に組み入れました。

##### ・為替ヘッジ（為替の売り予約）

当ファンドの運用の基本方針に従い、為替ヘッジは行ないませんでした。

<Aコース/Bコース>

## ◎今後の運用方針

### [野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド]

#### ・投資環境

米国経済は、製造業の景況感などは総じて低調な一方で、雇用や個人消費などの経済指標は底堅く推移しており、引き続きインフレ率には注視が必要です。今後の米国景気は利上げの影響により減速が予想され、足元の金融引き締め策が企業業績や景気に与える影響と、米金融機関の経営破綻をきっかけに信用不安が広がったことから金融システムの安定性などにも注視が必要です。

#### ・運用方針

当ファンドでは、世界各国の株式の中から、AI先端技術の研究成果に着目し、AIの活用、実用化によって恩恵を受け、高い成長が期待される企業等に投資を行ないます。

外部環境の不透明感が続くなかでも、AI関連などの高成長が期待される分野への注目は引き続き高く、各分野での勝ち組企業がますます強くなるという傾向が目立ちます。加えて、情報技術セクターだけでなく、幅広い業種や分野でAIを活用した新しい技術やビジネスモデルも普及してきています。引き続き中長期的な競争優位性を見極めることを重視し、銘柄を選択してまいります。

### [野村グローバルAI関連株式ファンド Aコース]

主要投資対象である[野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れ、実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジ（先進国通貨等による代替ヘッジを含みます。）により為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

### [野村グローバルAI関連株式ファンド Bコース]

主要投資対象である[野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れ、実質組入外貨建資産については為替ヘッジを行なわない方針です。

今後とも、引き続きご愛顧を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## &lt;Aコース&gt;

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年11月15日～2023年5月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	97	0.850	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 47 )	( 0.411 )	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	( 47 )	( 0.411 )	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	( 3 )	( 0.027 )	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	4	0.035	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	( 4 )	( 0.035 )	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	( 0 )	( 0.001 )	
(d) そ の 他 費 用	0	0.004	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	( 0 )	( 0.002 )	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	( 0 )	( 0.002 )	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	( 0 )	( 0.000 )	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	101	0.890	
期中の平均基準価額は、11,429円です。			

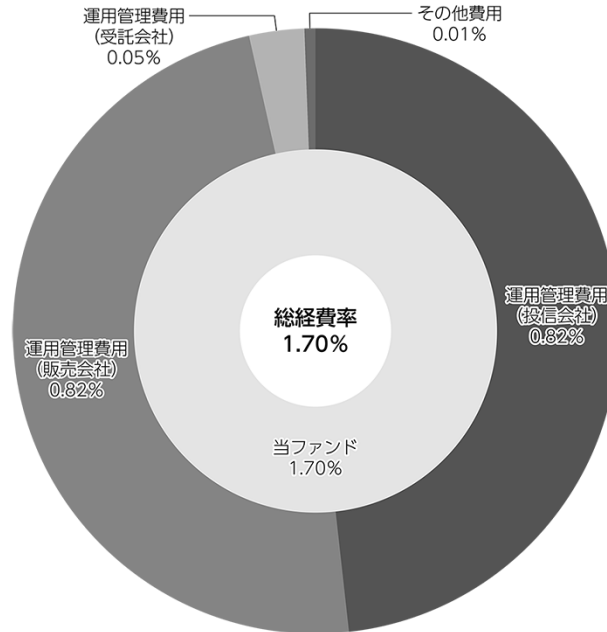
\* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
\* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
\* 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。  
\* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## <Aコース>

(参考情報)

### ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.70%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## &lt;Aコース&gt;

## ○売買及び取引の状況

(2022年11月15日～2023年5月15日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド	千口 20,361,585	千円 40,665,352	千口 23,521,975	千円 47,350,607

\*単位未満は切り捨て。

## ○株式売買比率

(2022年11月15日～2023年5月15日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	126,479,582千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	122,212,911千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.03	

\*(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2022年11月15日～2023年5月15日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2023年5月15日現在)

## 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド	千口 28,197,974	千口 25,037,583	千円 52,789,242

\*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

## ＜Aコース＞

## ○投資信託財産の構成

(2023年5月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド	52,789,242	96.6
コール・ローン等、その他	1,867,070	3.4
投資信託財産総額	54,656,312	100.0

\*金額の単位未満は切り捨て。

\*野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(120,140,146千円)の投資信託財産総額(133,775,397千円)に対する比率は89.8%です。

\*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=136.05円、1英ポンド=169.36円、1ユーロ=147.66円、1香港ドル=17.35円。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年5月15日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	104,367,348,711
コール・ローン等	1,858,992,283
野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド(評価額)	52,789,242,073
未収入金	49,719,114,355
(B) 負債	51,492,173,071
未払金	50,387,879,378
未払収益分配金	453,470,515
未払解約金	169,519,425
未払信託報酬	480,372,577
未払利息	1,491
その他未払費用	929,685
(C) 純資産総額(A-B)	52,875,175,640
元本	45,347,051,503
次期繰越損益金	7,528,124,137
(D) 受益権総口数	45,347,051,503口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,660円

(注) 期首元本額は51,266,527,234円、期中追加設定元本額は487,228,438円、期中一部解約元本額は6,406,704,169円、1口当たり純資産額は1.1660円です。

## ○損益の状況

(2022年11月15日～2023年5月15日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 86,402
受取利息	221
支払利息	△ 86,623
(B) 有価証券売買損益	1,545,868,824
売買益	9,156,820,474
売買損	△ 7,610,951,650
(C) 信託報酬等	△ 481,387,229
(D) 当期損益金(A+B+C)	1,064,395,193
(E) 前期繰越損益金	△ 635,966,718
(F) 追加信託差損益金	7,553,166,177
(配当等相当額)	( 6,212,441,217)
(売買損益相当額)	( 1,340,724,960)
(G) 計(D+E+F)	7,981,594,652
(H) 収益分配金	△ 453,470,515
次期繰越損益金(G+H)	7,528,124,137
追加信託差損益金	7,553,166,177
(配当等相当額)	( 6,212,742,015)
(売買損益相当額)	( 1,340,424,162)
分配準備積立金	29,888,716,509
繰越損益金	△29,913,758,549

\*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

\*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

\*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## <Aコース>

(注) 分配金の計算過程 (2022年11月15日～2023年5月15日) は以下の通りです。

項 目	当 期
	2022年11月15日～ 2023年5月15日
a. 配当等収益(経費控除後)	136,289,828円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	6,212,742,015円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	30,205,897,196円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	36,554,929,039円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	8,061円
g. 分配金	453,470,515円
h. 分配金(1万円当たり)	100円

## ○分配金のお知らせ

1万円当たり分配金(税込み)	100円
----------------	------

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

## ○お知らせ

該当事項はございません。

## &lt;Bコース&gt;

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年11月15日～2023年5月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	125	0.850	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 61 )	( 0.411 )	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	( 61 )	( 0.411 )	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	( 4 )	( 0.027 )	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	5	0.036	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	( 5 )	( 0.036 )	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	( 0 )	( 0.001 )	
(d) そ の 他 費 用	1	0.004	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	( 0 )	( 0.002 )	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	( 0 )	( 0.002 )	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	( 0 )	( 0.000 )	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	131	0.891	
期中の平均基準価額は、14,710円です。			

\* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
\* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
\* 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。  
\* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

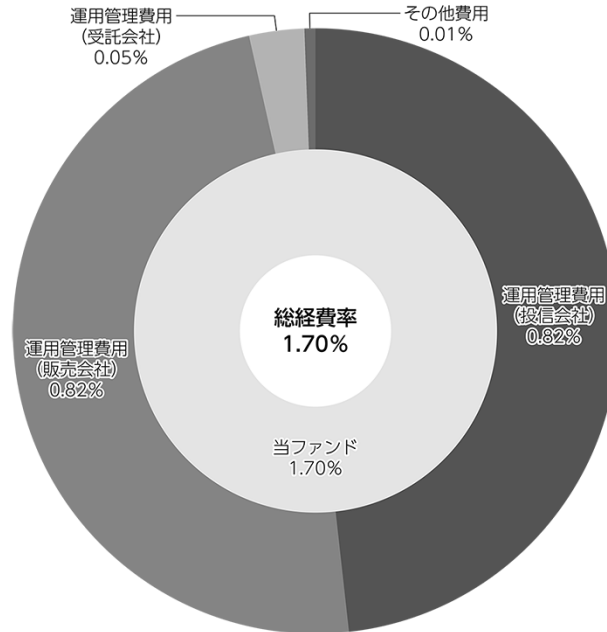


## &lt;Bコース&gt;

(参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.70%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## &lt;Bコース&gt;

## ○売買及び取引の状況

(2022年11月15日～2023年5月15日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド	千口 563,937	千円 1,136,661	千口 3,239,561	千円 6,499,140

\*単位未満は切り捨て。

## ○株式売買比率

(2022年11月15日～2023年5月15日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	126,479,582千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	122,212,911千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.03	

\*(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2022年11月15日～2023年5月15日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2023年5月15日現在)

## 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド	千口 36,632,103	千口 33,956,479	千円 71,593,842

\*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

## &lt;Bコース&gt;

## ○投資信託財産の構成

(2023年5月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド	71,593,842	96.9
コール・ローン等、その他	2,306,183	3.1
投資信託財産総額	73,900,025	100.0

\*金額の単位未満は切り捨て。

\*野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(120,140,146千円)の投資信託財産総額(133,775,397千円)に対する比率は89.8%です。

\*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=136.05円、1英ポンド=169.36円、1ユーロ=147.66円、1香港ドル=17.35円。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年5月15日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	73,900,025,240
コール・ローン等	2,306,183,133
野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド(評価額)	71,593,842,107
(B) 負債	2,163,630,727
未払収益分配金	1,413,359,472
未払解約金	140,592,003
未払信託報酬	608,499,721
未払利息	1,850
その他未払費用	1,177,681
(C) 純資産総額(A-B)	71,736,394,513
元本	47,111,982,414
次期繰越損益金	24,624,412,099
(D) 受益権総口数	47,111,982,414口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,227円

(注) 期首元本額は49,410,681,501円、期中追加設定元本額は1,215,048,564円、期中一部解約元本額は3,513,747,651円、1口当たり純資産額は15,227円です。

## ○損益の状況

(2022年11月15日～2023年5月15日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 85,077
受取利息	76
支払利息	△ 85,153
(B) 有価証券売買損益	2,489,898,235
売買益	2,823,957,249
売買損	△ 334,059,014
(C) 信託報酬等	△ 609,677,402
(D) 当期損益金(A+B+C)	1,880,135,756
(E) 前期繰越損益金	14,731,056,191
(F) 追加信託差損益金	9,426,579,624
(配当等相当額)	( 8,282,637,327)
(売買損益相当額)	( 1,143,942,297)
(G) 計(D+E+F)	26,037,771,571
(H) 収益分配金	△ 1,413,359,472
次期繰越損益金(G+H)	24,624,412,099
追加信託差損益金	9,426,579,624
(配当等相当額)	( 8,283,529,060)
(売買損益相当額)	( 1,143,050,564)
分配準備積立金	35,662,675,384
繰越損益金	△20,464,842,909

\*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

\*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

\*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## <Bコース>

(注) 分配金の計算過程 (2022年11月15日～2023年5月15日) は以下の通りです。

項 目	当 期
	2022年11月15日～ 2023年5月15日
a. 配当等収益(経費控除後)	199,657,974円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	8,283,529,060円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	36,876,376,882円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	45,359,563,916円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	9,628円
g. 分配金	1,413,359,472円
h. 分配金(1万円当たり)	300円

## ○分配金のお知らせ

1万円当たり分配金(税込み)	300円
----------------	------

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

## ○お知らせ

該当事項はございません。

## ○（参考情報）親投資信託の組入資産の明細

(2023年5月15日現在)

## &lt;野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド&gt;

下記は、野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド全体(58,994,063千口)の内容です。

## 国内株式

銘柄	株数	期首(前期末)	当	期	末
		株数	株数	評価額	評価額
機械 (44.6%)		千株	千株		千円
ダイキン工業		56.8	56.8		1,492,988
サービス業 (55.4%)					
リクルートホールディングス		583.3	478.1		1,853,115
合計	株数・金額	640	534		3,346,103
	銘柄数<比率>	2	2		<2.7%>

\*各銘柄の業種分類は、期首、期末の各時点での分類に基づいています。

\*銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

\*評価額欄の&lt; &gt;内は、このファンドが組み入れているマザーファンドの純資産総額に対する評価額の比率。

\*評価額の単位未満は切り捨て。

## 外国株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		業 種 等
	株 数	株 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円	
ADOBE INC	1,814	257	8,621	1,172,895	ソフトウェア
AKAMAI TECHNOLOGIES	—	1,035	8,830	1,201,405	情報技術サービス
AMAZON.COM INC	6,137	1,680	18,523	2,520,146	大規模小売り
AMGEN INC	857	—	—	—	バイオテクノロジー
ATLASSIAN CORP PLC-CLASS A	1,421	1,129	15,243	2,073,913	ソフトウェア
BIOMARIN PHARMACEUTICAL INC	—	952	8,942	1,216,577	バイオテクノロジー
CDW CORPORATION	—	1,652	28,123	3,826,222	電子装置・機器・部品
CME GROUP INC	735	478	8,840	1,202,764	資本市場
COPART INC	—	1,660	13,580	1,847,621	商業サービス・用品
CROWDSTRIKE HOLDINGS INC - A	1,138	3,056	39,798	5,414,557	ソフトウェア
DEERE & COMPANY	450	—	—	—	機械
FORTINET INC	5,380	4,035	27,345	3,720,313	ソフトウェア
HONEYWELL INTERNATIONAL INC	770	—	—	—	コングロメリット
IDEXX LABORATORIES INC	303	303	14,770	2,009,504	ヘルスケア機器・用品
INSULET CORP	343	343	11,326	1,541,023	ヘルスケア機器・用品
INTUIT INC	1,824	205	8,766	1,192,642	ソフトウェア
INTUITIVE SURGICAL INC	796	449	13,706	1,864,786	ヘルスケア機器・用品
JUNIPER NETWORKS INC	—	12,910	37,542	5,107,627	通信機器
LAM RESEARCH	530	696	36,686	4,991,152	半導体・半導体製造装置
MSCI INC	—	837	39,308	5,347,857	資本市場
MARVELL TECHNOLOGY INC	—	7,270	29,167	3,968,203	半導体・半導体製造装置
MASTERCARD INC	1,304	532	20,318	2,764,283	金融サービス
MICROSOFT CORP	3,419	1,417	43,781	5,956,411	ソフトウェア
MICROCHIP TECHNOLOGY	1,705	—	—	—	半導体・半導体製造装置
MICRON TECHNOLOGY	—	2,213	13,481	1,834,171	半導体・半導体製造装置
NVIDIA CORP	1,987	1,852	52,485	7,140,676	半導体・半導体製造装置
ORACLE CORPORATION	2,838	1,888	18,474	2,513,398	ソフトウェア
PAYPAL HOLDINGS INC	—	2,793	17,230	2,344,143	金融サービス
PLUG POWER INC	2,666	2,666	1,994	271,306	電気設備
QUALCOMM INC	—	3,326	34,464	4,688,828	半導体・半導体製造装置
QUANTUMSCAPE CORP	1,991	—	—	—	自動車用部品
SERVICENOW INC	1,424	1,234	56,171	7,642,157	ソフトウェア
SHIFT4 PAYMENTS INC-CLASS A	—	5,119	31,507	4,286,587	金融サービス
BLOCK INC	1,490	—	—	—	金融サービス
SUPER MICRO COMPUTER INC	—	2,307	31,029	4,221,515	コンピュータ・周辺機器
TESLA INC	213	459	7,710	1,048,983	自動車
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	250	250	13,116	1,784,465	ライフサイエンス・ツール/サービス
UNITEDHEALTH GROUP INC	568	214	10,512	1,430,201	ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス
VEEVA SYSTEMS INC-CLASS A	1,264	742	12,927	1,758,735	ヘルスケア・テクノロジー
VERTEX PHARMACEUTICALS	993	253	8,789	1,195,807	バイオテクノロジー
WORKDAY INC-CLASS A	1,087	1,460	26,682	3,630,216	ソフトウェア
ZOETIS INC	508	508	9,327	1,269,060	医薬品
ZSCALER INC	—	2,830	32,355	4,401,950	ソフトウェア
小 計	株 数	株 数	811,481	110,402,119	
	銘柄 数 < 比 率 >	30	37	—	< 88.8% >
(イギリス)			千英ポンド		
ASTRAZENECA PLC	1,041	1,041	12,512	2,119,137	医薬品
小 計	株 数	株 数	12,512	2,119,137	
	銘柄 数 < 比 率 >	1	1	—	< 1.7% >

銘柄	株数	株数	期末		業種等	
			評価額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(ユーロ…フランス)	百株	百株	千ユーロ	千円		
LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUITTON SE	336	201	17,796	2,627,837	繊維・アパレル・贅沢品	
小計	株数・金額	336	201	17,796	2,627,837	
	銘柄数<比率>	1	1	—	<2.1%>	
(ユーロ…オランダ)						
ASML HOLDING NV	800	403	24,042	3,550,186	半導体・半導体製造装置	
小計	株数・金額	800	403	24,042	3,550,186	
	銘柄数<比率>	1	1	—	<2.9%>	
ユーロ計	株数・金額	1,137	604	41,839	6,178,023	
	銘柄数<比率>	2	2	—	<5.0%>	
合計	株数・金額	48,384	72,655	—	118,699,280	
	銘柄数<比率>	33	40	—	<95.4%>	

\* 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

\* 邦貨換算金額欄の〈 〉内は、このファンドが組み入れているマザーファンドの純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

\* 株数・評価額の単位未満は切り捨て。

\* 銘柄コード等の変更があった銘柄は、別銘柄として掲載しております。

# 野村グローバルAI関連株式ファンド マザーファンド

## 運用報告書

第6期（決算日2022年11月14日）

作成対象期間（2021年11月16日～2022年11月14日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。  
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。  
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

#### ●当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	新興国を含む世界各国のAI（人工知能）技術関連の株式（DR（預託証券）を含みます。）を主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。銘柄選定にあたっては、グローバルな視点でAI先端技術の研究成果に着目し、AI技術の実用化に伴って投資魅力が高まると考えられるAI関連分野の銘柄群を中心に利益成長に着目した銘柄選択を行ないます。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。
主な投資対象	新興国を含む世界各国のAI（人工知能）技術関連の株式（DR（預託証券）を含みます。）を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

## 野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

<http://www.nomura-am.co.jp/>



## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額	騰落率		株組入比率	株先物比率	純資産額
		期騰	落中率			
	円		%	%	%	百万円
2期(2018年11月14日)	13,611		8.8	95.1	—	304,088
3期(2019年11月14日)	15,044		10.5	96.2	—	231,096
4期(2020年11月16日)	18,345		21.9	98.2	—	200,809
5期(2021年11月15日)	26,276		43.2	97.5	—	213,866
6期(2022年11月14日)	20,363		△22.5	97.1	—	132,011

\*株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

\*当ファンドは特定の指数等を念頭に置いた運用を行なっており、また、当ファンドの主要投資対象であるAI技術関連企業の株価の値動きを表す適切な指数等がないため、ベンチマーク等はありません。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率		株組入比率	株先物比率
		騰	落率		
(期首)	円		%	%	%
2021年11月15日	26,276		—	97.5	—
11月末	25,816		△1.8	96.3	—
12月末	24,879		△5.3	95.5	—
2022年1月末	21,239		△19.2	93.4	—
2月末	20,714		△21.2	93.9	—
3月末	22,824		△13.1	96.4	—
4月末	20,389		△22.4	96.6	—
5月末	19,954		△24.1	94.9	—
6月末	19,558		△25.6	95.3	—
7月末	20,739		△21.1	95.6	—
8月末	20,744		△21.1	95.1	—
9月末	19,276		△26.6	95.1	—
10月末	21,035		△19.9	96.1	—
(期末)					
2022年11月14日	20,363		△22.5	97.1	—

\*騰落率は期首比です。

\*株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

## ◎運用経過

### ○期中の基準価額等の推移



### ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首26,276円から期末20,363円となりました。

- (下落) 新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大への懸念が広がったこと、FRB（米連邦準備制度理事会）がインフレ対応重視で金融政策の正常化を前倒しで進めるとの見方が強まり、米長期金利が上昇したこと、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が嫌気されたこと
- (上昇) 2022年3月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で市場予想と同じく0.25%の政策金利引き上げを決定するなど重要イベントを通過したこと、ロシアとウクライナの停戦交渉進展への期待が高まったこと、為替市場で円が下落（円安）したこと
- (下落) FRBの理事が資産圧縮を「5月にも急ピッチで始める」と発言するなど、金融引き締め姿勢の強まりに対する懸念が広がったこと、米シガン大学が発表した6月の消費者信頼感指数が市場予想を下回ったこと、物価上昇や金融引き締めによる企業業績の先行きに警戒感が高まったこと
- (上昇) 4-6月期の米企業決算が市場予想を上回ったこと、7月の米CPI（消費者物価指数）上昇率が6月と比較して減速したことで、FRBが金融引き締めペースを緩めるとの期待感が高まったこと
- (下落) FRBのパウエル議長がインフレ抑制を最優先に利上げを継続する方針を示したことで、早期の利下げ期待が後退したこと、8月の米CPI上昇率が市場予想を上回ったことで、大幅利上げが実施されるとの観測が強まったこと
- (上昇) 一部メディアが、米金融当局が年内に利上げペースの減速を協議する可能性を報じたこと、10月の米CPI上昇率が市場予想を下回ったことが好感されたこと

## ○当ファンドのポートフォリオ

### ・株式組入比率

期を通じておおむね高位を維持しました。

### ・期中の主な動き

- (1) 当ファンドでは、世界各国の株式の中から、「IT関連」、「産業関連」、「医療・ヘルスケア関連」等の分野を中心に高度なAI（人工知能）先端技術の研究成果に着目し、AIの活用、実用化によって恩恵を受け、高い成長が期待される企業等に投資を行ないました。結果、AIの活用により中長期で成長が期待されるITセクターなどの投資比率を高めとしました。
- (2) 銘柄につきましては、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）が進む中で、サイバーセキュリティ製品やサービスへの需要の高まりによる中長期的な成長が期待できると判断したクラウドストライク・ホールディングス（米国のソフトウェア株）や、大手企業を中心とした安定的な顧客基盤を持つデータベース事業に加えて、クラウド関連ビジネスの中長期的な拡大が期待できると判断したオラクル（米国のソフトウェア株）などを買い付けました。一方、相対的にマクロ環境の変化の影響を受けやすいと判断したエヌビディア（米国の半導体・半導体製造装置株）や、2021年8-10月期決算において売上成長鈍化への懸念が高まったと判断したエラスティック（オランダのソフトウェア株）などを売却しました。

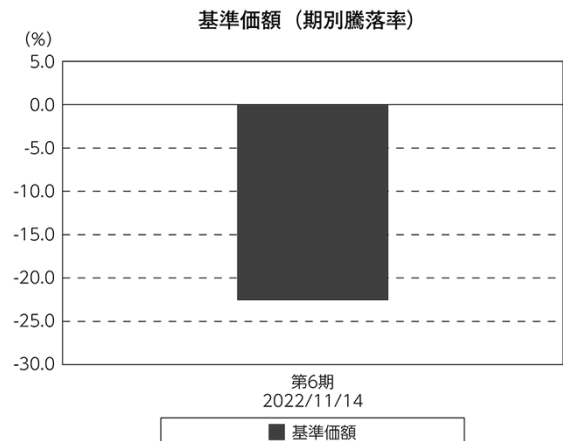
## ○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは特定の指数等を念頭に置いた運用を行なっており、また、当ファンドの主要投資対象であるAI技術関連企業の株価の値動きを表す適切な指数等がないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。

保有銘柄のうち、既存の主力薬の成長見通しが良好であることに加え、有望な新薬パイプラインを保有していることから中長期的な成長が期待できると判断したバーテックス・ファーマシューティカルズ（米国のバイオテクノロジー株）などが上昇したことが基準価額のプラス要因となりました。

一方、景気後退懸念や中国への半導体輸出規制によって今後の業績への不透明感が高まったことからエヌビディア（米国の半導体・半導体製造装置株）などが下落したことが基準価額のマイナス要因となりました。



## ◎今後の運用方針

### ・投資環境

米国経済は減速傾向が見られます。2022年10月の総合PMI（購買担当者景気指数）は、好況・不況の節目とされる50を4ヵ月連続で下回っており、今後も景気減速が続く可能性が高そうです。一方で、10月のCPI上昇率は市場予想を下回ったものの依然高い水準にあり、FRBのインフレへの警戒は続くと考えられます。今後、FRBによる継続的な利上げの効果が顕在化するのに伴い、米国景気への影響が注視されます。今後の景気減速が人手不足や部品不足といった供給制約の解消と共にインフレ圧力の沈静化につながれば、2023年にはインフレ率が大幅に鈍化し、FRBは利上げを休止すると想定しています。

### ・運用方針

当ファンドでは、世界各国の株式の中から、AI先端技術の研究成果に着目し、AIの活用、実用化によって恩恵を受け、高い成長が期待される企業等に投資を行ないます。

外部環境の不透明感が続くなかでも、AI関連などの高成長が期待される分野への注目は引き続き高く、各分野での勝ち組企業がますます強くなるという傾向が目立ちます。加えて、ITセクターだけでなく、幅広い業種や分野でAIを活用した新しい技術やビジネスモデルも普及してきています。引き続き中長期的な競争優位性を見極めることを重視し、銘柄を選択してまいります。

## ○1万口当たりの費用明細

(2021年11月16日～2022年11月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	円 3 (3)	% 0.013 (0.013)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 ( 株 式 )	1 (1)	0.006 (0.006)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 ( 保 管 費 用 ) ( そ の 他 )	1 (1) (0)	0.004 (0.004) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数  保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	5	0.023	
期中の平均基準価額は、21,430円です。			

\*各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\*各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2021年11月16日～2022年11月14日)

## 株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 —	千円 —	千株 90	千円 1,656,312
	外 国	アメリカ	百株 8,045 (10,488)	千米ドル 102,976 ( — )	百株 22,679 ( 1,092)
イギリス		1,079	千英ポンド 10,970	37	千英ポンド 405
ユーロ			千ユーロ		千ユーロ
ドイツ		—	—	3,510	9,821
フランス		—	—	497	5,726
オランダ	—	—	29	1,409	

\*金額は受け渡し代金。

\*単位未満は切り捨て。

\*（ ）内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2021年11月16日～2022年11月14日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	59,342,128千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	152,470,413千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.38

\* (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2021年11月16日～2022年11月14日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2022年11月14日現在)

## 国内株式

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
機械 (31.6%)				
ダイキン工業	126.5	56.8	1,322,588	
サービス業 (68.4%)				
リクルートホールディングス	604.5	583.3	2,858,170	
合 計	株 数 ・ 金 額	731	640	4,180,758
	銘 柄 数 < 比 率 >	2	2	< 3.2% >

\*各銘柄の業種分類は、期首、期末の各時点での分類に基づいています。

\*銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

\*評価額欄の&lt; &gt;内は、純資産総額に対する評価額の比率。

\*評価額の単位未満は切り捨て。

## 外国株式

銘柄	株数	株数	期末		業種等	
			評価額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円		
ADOBE INC	2,066	1,814	61,884	8,639,091	ソフトウェア	
AMAZON.COM INC	327	6,137	61,854	8,634,933	インターネット販売・通信販売	
AMGEN INC	514	857	24,426	3,409,899	バイオテクノロジー	
ANSYS INC	902	—	—	—	ソフトウェア	
ATLASSIAN CORP PLC-CLASS A	—	1,421	20,230	2,824,216	ソフトウェア	
AVALARA INC	1,132	—	—	—	ソフトウェア	
CME GROUP INC	762	735	12,807	1,787,909	資本市場	
CATERPILLAR INC DEL	718	—	—	—	機械	
CROWDSTRIKE HOLDINGS INC - A	—	1,138	16,287	2,273,673	ソフトウェア	
DEERE & COMPANY	466	450	18,271	2,550,680	機械	
META PLATFORMS INC-CLASS A	2,106	—	—	—	インタラクティブ・メディアおよびサービス	
FORTINET INC	1,076	5,380	30,197	4,215,632	ソフトウェア	
GLOBAL PAYMENTS INC	556	—	—	—	情報技術サービス	
HONEYWELL INTERNATIONAL INC	798	770	16,380	2,286,677	コングロマリット	
IDEXX LABORATORIES INC	488	303	13,370	1,866,519	ヘルスケア機器・用品	
INSULET CORP	—	343	10,072	1,406,174	ヘルスケア機器・用品	
INTUIT INC	1,890	1,824	74,426	10,389,938	ソフトウェア	
INTUITIVE SURGICAL INC	825	796	21,100	2,945,611	ヘルスケア機器・用品	
LAM RESEARCH	549	530	26,543	3,705,467	半導体・半導体製造装置	
MASTERCARD INC	1,351	1,304	44,243	6,176,380	情報技術サービス	
MICROSOFT CORP	4,220	3,419	84,486	11,794,372	ソフトウェア	
MICROCHIP TECHNOLOGY	—	1,705	12,929	1,804,890	半導体・半導体製造装置	
NETFLIX INC	294	—	—	—	娯楽	
NVIDIA CORP	4,730	1,987	32,441	4,528,868	半導体・半導体製造装置	
ORACLE CORPORATION	—	2,838	22,062	3,079,940	ソフトウェア	
PINTEREST INC- CLASS A	4,445	—	—	—	インタラクティブ・メディアおよびサービス	
PLUG POWER INC	2,666	2,666	4,769	665,818	電気設備	
QUANTUMSCAPE CORP	1,991	1,991	1,495	208,735	自動車部品	
SERVICENOW INC	1,424	1,424	58,371	8,148,617	ソフトウェア	
SHOPIFY INC - CLASS A	210	—	—	—	情報技術サービス	
BLOCK INC	1,544	1,490	10,677	1,490,556	情報技術サービス	
TESLA INC	—	213	4,174	582,712	自動車	
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	259	250	13,467	1,879,993	ライフサイエンス・ツール/サービス	
UNITEDHEALTH GROUP INC	589	568	29,654	4,139,718	ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス	
VEEVA SYSTEMS INC-CLASS A	1,534	1,264	24,144	3,370,631	ヘルスケア・テクノロジー	
VERTEX PHARMACEUTICALS	670	993	30,113	4,203,875	バイオテクノロジー	
WORKDAY INC-CLASS A	—	1,087	17,060	2,381,640	ソフトウェア	
ZOETIS INC	1,474	508	7,546	1,053,469	医薬品	
ZOOM VIDEO COMMUNICATIONS-A	619	—	—	—	ソフトウェア	
ATLASSIAN CORP PLC-CLASS A	1,473	—	—	—	ソフトウェア	
FIVERR INTERNATIONAL LTD	1,715	—	—	—	インターネット販売・通信販売	
ELASTIC NV	5,060	—	—	—	ソフトウェア	
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	51,443 35	46,205 30	805,491	112,446,646	<85.2%>
(イギリス)				千英ポンド		
ASTRAZENECA PLC	—	1,041	11,041	1,818,097	医薬品	
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	—	1,041	11,041	1,818,097	<1.4%>

銘柄	期首(前期末)	当 期 末			業 種 等
		株 数	株 数	評 価 額	
				外貨建金額	
(ユーロ…ドイツ) HELLOFRESH SE	百株 3,510	百株 —	千ユーロ —	千円 —	食品・生活必需品小売り
小 計	株 数 ・ 金 額 銘柄 数 < 比 率 >	株 数 —	—	—	
(ユーロ…フランス) LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUITTON SE SAFRAN SA	349 485	336 —	23,784 —	3,428,717 —	繊維・アパレル・贅沢品 航空宇宙・防衛
小 計	株 数 ・ 金 額 銘柄 数 < 比 率 >	株 数 1	—	< 2.6% >	
(ユーロ…オランダ) ASML HOLDING NV	829	800	44,163	6,366,620	半導体・半導体製造装置
小 計	株 数 ・ 金 額 銘柄 数 < 比 率 >	株 数 1	—	< 4.8% >	
ユ ー ロ 計	株 数 ・ 金 額 銘柄 数 < 比 率 >	1,137	67,947	9,795,337	
合 計	株 数 ・ 金 額 銘柄 数 < 比 率 >	48,384	—	124,060,081	
		33	—	< 94.0% >	

\*邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

\*邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

\*株数・評価額の単位未満は切り捨て。

\*銘柄コード等の変更があった銘柄は、別銘柄として掲載しております。

## ○投資信託財産の構成

(2022年11月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 128,240,839	% 97.1
コール・ローン等、その他	3,770,567	2.9
投資信託財産総額	132,011,406	100.0

\*金額の単位未満は切り捨て。

\*当期末における外貨建純資産（125,415,341千円）の投資信託財産総額（132,011,406千円）に対する比率は95.0%です。

\*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=139.60円、1英ポンド=164.66円、1ユーロ=144.16円、1香港ドル=17.81円。



## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年11月14日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	132,011,406,592
コール・ローン等	3,732,988,753
株式(評価額)	128,240,839,508
未収配当金	37,578,331
(B) 負債	3,794
未払利息	3,794
(C) 純資産総額(A-B)	132,011,402,798
元本	64,830,077,711
次期繰越損益金	67,181,325,087
(D) 受益権総口数	64,830,077,711口
1万口当たり基準価額(C/D)	20,363円

(注) 期首元本額は81,393,440,283円、期中追加設定元本額は60,578,736,055円、期中一部解約元本額は77,142,098,627円、1口当たり純資産額は2.0363円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額  
 ・野村グローバルAI関連株式ファンド Bコース 36,632,103,558円  
 ・野村グローバルAI関連株式ファンド Aコース 28,197,974,153円

## ○損益の状況 (2021年11月16日～2022年11月14日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	766,613,719
受取配当金	750,306,212
受取利息	19,753,418
支払利息	△ 3,445,911
(B) 有価証券売買損益	△ 48,666,996,193
売買益	45,412,620,440
売買損	△ 94,079,616,633
(C) 保管費用等	△ 6,798,987
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 47,907,181,461
(E) 前期繰越損益金	132,472,874,896
(F) 追加信託差損益金	68,364,669,710
(G) 解約差損益金	△ 85,749,038,058
(H) 計(D+E+F+G)	67,181,325,087
次期繰越損益金(H)	67,181,325,087

\* 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

\* 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

\* 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

## ○お知らせ

該当事項はございません。